安全データシート

作成日：2001 年 3 月 12 日
改訂日：2026 年 11 月 10 日

1. 化学品及び会社情報	
製品名	NPA
化学品の名称	ノルマル-プロピルアルコール（n-Propyl alcohol）
供給者の会社名称	アーク株式会社
住所	大阪市中央区安土町 3-5-13
電話番号	06-6563-7710
ファックス番号	06-6563-7720
緊急連絡電話番号	06-6563-7710
推奨用途及び使用上の制限	溶剤（インキ、塗料、化粧品、殺虫剤等）、プロピル基導入化学品の原料（自動車補修用塗料、ハイソリッド塗料システム等）

2. 危険有害性の要約	
GHS 分類	JIS Z 7252：2025 及び JIS Z 7253：2025 に基づく分類
物理化学的危険性	引火性液体　区分 2
健康に対する有害性	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性　区分 1 生殖毒性　区分 2 特定標的臓器毒性（単回ばく露）　区分 3（麻酔作用、気道刺激性） 上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しない又は分類できない。
環境に対する有害性	区分に該当しない
GHS ラベル要素　絵表示	
注意喚起語	危険
危険有害性情報	H225　引火性の高い液体および蒸気 H318　重篤な眼の損傷 H361　生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い H335　呼吸器への刺激のおそれ H336　眠気またはめまいのおそれ
注意書き　安全対策	P203　使用前にすべての安全説明書を入手し、読み、従うこと。 P210　熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。 P233　容器を密閉しておくこと。 P240　容器を接地しアースを取ること。 P241　防爆型の電気／換気／照明機器を使用すること。 P242　火花を発生させない工具を使用すること。 P243　静電気放電に対する予防措置を講ずること。 P261　ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。 P264+P265　取扱後は手をよく洗うこと。眼には触らないこと。 P271　屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 P280　保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
注意書き　応急措置	P303+P361+P353　皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。接触部位を流水またはシャワーで洗うこと。 P304+P340　吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

	P305+P354+P338　眼に入った場合：すぐに水で数分間洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 P317　医療処置を受けること。 P318　ばく露またはその懸念がある場合は、医学的助言を求めること。 P319　気分が悪い時は、医療処置を受けること。 P370+P378　火災の場合：消火するために水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素を使用すること。
注意書き　保管	P403+P233　換気の良いところで保管すること。容器を密閉しておくこと。 P403+P235　換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。 P405　施錠して保管すること。
注意書き　廃棄	P501　内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託して廃棄すること。
GHS 分類に該当しない他の危険有害性	蒸気は空気より重く、低所に滞留し、離れた着火源から引火するおそれがある。

3. 組成及び成分情報	
化学物質・混合物の区別	化学物質（単一製品）
化学名又は一般名	ノルマル-プロピルアルコール
別名	プロピルアルコール、１－プロパノール、（1-Propanol）、ノルマル－プロパノール、（n-Propanol）、プロパン－１－オール、（Propan-1-ol）
濃度又は濃度範囲	≧99.8%
分子式（分子量）	C3H8O（60.1）
化学特性（示性式又は構造式）	 CH3CH2CH2OH
CAS 番号	71-23-8
化審法官報公示整理番号	(2)-207
安衛法（官報）公示整理番号	公表化学物質

4. 応急措置	
吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合は、医師の診察／手当てを受けること。
眼に入った場合	直ちに水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 直ちに医師の診察／手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	吸入：協調運動失調、錯乱、めまい、し眠、頭痛、吐き気、脱力感。 皮膚：皮膚の乾燥。 眼：発赤、痛み、かすみ眼、重篤な眼の損傷。 経口摂取：腹痛、咽頭痛、嘔吐、協調運動失調、錯乱、めまい、し眠、頭痛、吐き気、脱力感。 高濃度でばく露すると、意識消失を生じることがある。
応急措置をする者の保護	救助者は状況に応じて適切な保護手袋、保護眼鏡、呼吸用保護具等を着用すること。

医師に対する特別な注意事項	アルコール飲料の摂取により有害作用が増大する。

5. 火災時の措置	
適切な消火剤	水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	棒状放水（火災を拡大させるおそれがある）
火災時の特有の危険有害性	極めて燃えやすく、熱、火花、火炎で容易に発火する。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 消火後再び発火するおそれがある。 火災時に一酸化炭素、二酸化炭素等の刺激性及び／又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	全ての着火源を取り除く。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏出区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 適切な保護具（第 8 項参照）を着用し、眼、皮膚への接触や蒸気の吸入を避ける。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。河川、下水、排水溝、土壌等に排出されないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	危険でなければ漏れを止める。 不活性材料（例えば、乾燥砂又は土等）で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。 回収作業には火花を発生させない工具を使用すること。
二次災害の防止策	全ての着火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い　技術的対策	第 8 項に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
取扱い　局所排気・全体換気	第 8 項に記載の局所排気、全体換気を行う。
取扱い　安全取扱注意事項	使用前に安全説明書を入手し、読み、従うこと。 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。 防爆型の機器を使用し、容器を接地しアースをとること。静電気放電に対する措置を講ずること。 ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。 眼、皮膚との接触を避けること。
取扱い　接触回避	第 10 項を参照。
取扱い　衛生対策	この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後は手をよく洗うこと。
保管　安全な保管条件	容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管すること。 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から離して保管すること。禁煙。 混触危険物質から離して保管すること。 施錠して保管すること。

	消防法の危険物（第４類）の貯蔵基準に従うこと。
保管　安全な容器包装材料	消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用すること。ある種のプラスチック、ゴムを侵すので容器・パッキン材質に注意すること。

8. ばく露防止及び保護措置	
管理濃度	設定されていない
濃度基準値	八時間濃度基準値：300 ppm（令和８年10月１日適用）
許容濃度　日本産業衛生学会（2025年度版）	設定されていない
許容濃度　ACGIH（2025年版）	TLV-TWA：100 ppm
設備対策	ばく露を防止するため、装置の密閉化又は防爆タイプの局所排気装置を設置すること。 労働者のばく露の程度を濃度基準値以下とすること。 防爆型の電気・換気・照明機器を使用し、静電気放電に対する措置を講ずること。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
保護具　呼吸用保護具	必要に応じて有機ガス用防毒マスク、又は送気マスク等の適切な呼吸用保護具を着用すること。
保護具　手の保護具	皮膚等障害化学物質等に該当するため、不浸透性の保護手袋（本物質に対して耐透過性を有するもの）を着用すること。
保護具　眼、顔面の保護具	保護眼鏡（ゴーグル型）、必要に応じて保護面を着用すること。
保護具　皮膚及び身体の保護具	不浸透性の保護衣、保護長靴等を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質	
物理的状態　形状	液体
色	無色
臭い	特徴臭
ｐＨ	データなし
融点・凝固点	-124.3℃ ： Lide(88th , 2004)
沸点、初留点及び沸騰範囲	97℃ ： ICSC(J) (1999)
引火点	15℃ (closed cup) ： ICSC(J) (1999)
自然発火温度	371℃ ： ICSC(J) (1999)
燃焼性（固体、ガス）	データなし
爆発範囲	2.1～13.5vol% ： ICSC(J) (1999)
蒸気圧	21mmHg (25℃) ： Howard (1997)
蒸気密度	2.1 (空気=1) ： HSDB (2008)
蒸発速度（酢酸ブチル＝１）	データなし
比重（密度）	0.8053 (20℃/4℃) ： Merck(14th.2006) 0.8g/cm3 (4℃/20℃) ： Chapman (2009)
溶解度	水 ： 1.00×10^6mg/L ： PHYSPROP Database (2005) アルコール、エーテル ： 混和 ： Merck (14th. 2006)
オクタノール・水分配係数	log P = 0.25 ： HSDB (2008)
分解温度	データなし

粘度	1.945mPa･s25℃ ： Lide (88th , 2004)
粉じん爆発下限濃度	データなし
最小発火エネルギー	データなし
体積抵抗率(導電率)	データなし

10. 安定性及び反応性	
反応性	引火性の高い液体である。「危険有害反応可能性」を参照。
化学的安定性	法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	強力な酸化剤と反応し、火災や爆発の危険をもたらす。 ある種のプラスチック、ゴムを侵す。 蒸気は空気とよく混合し、爆発性混合物を生成しやすい。
避けるべき条件	高温、直射日光、熱、炎、火花、静電気、スパーク
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報	
急性毒性　経口	ラット LD50 値：1900 mg/kg (ACGIH (2004)) 、1870 mg/kg、5400 mg/kg、6500 mg/kg (PATTY (4th, 1994) 、EHC 102 (1990)) 、2200 mg/kg (環境省リスク評価 (第 6 巻、2008)) より、区分 4 相当が 2 件、区分に該当しない相当が 3 件であることから、区分に該当しないとした。
急性毒性　経皮	ウサギ LD50 値：6700 mg/kg (PATTY (5th, 2001) 、ACGIH (2007)) 、4060 mg/kg (ACGIH (2007)) 、4000 mg/kg (PATTY (5th, 2001)) 及び 4050 mg/kg (EHC 102 (1990)) に基づき、区分に該当しないとした。
急性毒性　吸入：ガス	GHS の定義における液体であり、区分に該当しない。
急性毒性　吸入：蒸気	データ不足のため分類できない。なお、ラットに 4000 ppm (9.84 mg/L) を 4 時間ばく露により、6 匹中 2 匹が死亡している (EHC 102 (1990) 、PATTY (5th, 2001)) 。
急性毒性　吸入：粉じん及びミスト	データなし。分類できない。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	ウサギを用いた試験で極めて軽度の刺激性 (very slightly irritating) あるいは刺激性なし (not irritating) との報告 (PATTY (5th, 2001) 、IUCLID (2000)) に基づき、区分に該当しないとした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	ウサギの眼に適用した試験において重度の結膜炎、虹彩炎、角膜混濁及び潰瘍形成が認められた (ACGIH (2004) 、PATTY (5th, 2001)) との報告があること、及び EU CLP 分類で Eye Dam. 1 とされていることから、区分 1 とした。
呼吸器感作性	データなし。分類できない。
皮膚感作性	モルモットの maximization test (IUCLID (2000)) 及びマウスの ear-swelling test (EHC No.102 (1990)) の結果がいずれも感作性なしと報告されているが、前者は具体的なデータの記載がなく、後者は分類のため推奨された方法ではないことから、分類できないとした。なお、ヒトではパッチテストで陽性を示した 1 例の症例報告 (EHC No.102 (1990)) がある一方、「感作性なし」と評価されたパッチテストの結果 (IUCLID (2000)) もある。
生殖細胞変異原性	ラットに経口投与後の骨髄を用いた染色体異常試験で、染色体の構造異常と数的異常が報告されている (BUA Report No.190 (1998)) が、証拠として不完全であり、試験法にも欠陥があると記述されているので分類には用いない。なお、Ames 試験、ハムスター培養細胞を用いた小核試験及び姉妹染色分体交換試験 (ACGIH

	（2007）、PATTY（5th, 2001）、EHC 102（1990））の結果は全て陰性であった。以上より、分類できないとした。
発がん性	ACGIH（2007）でA4に分類されていることから、区分に該当しないとした。なお、2つの動物試験において肝臓の肉腫の増加が認められているが、試験デザインの情報が適切ではなく、1用量の試験であることからA3とすることはできなかったとしている（ACGIH（2007））。
生殖毒性	ラットを用い、雄は6週間吸入ばく露後に非ばく露の雌と交配、雌は妊娠1日目～9日目に吸入ばく露を行った試験において、母動物の体重増加抑制や摂餌量の減少など一般毒性の発現用量で、雄の生殖能低下（ACGIH（2007））、吸収胚の顕著な増加（環境省リスク評価（第6巻、2008）、PATTY（5th, 2001））が報告されていることから、区分2とした。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	マウスで吸入ばく露により深い麻酔を起こしたとの報告（EHC 102（1990）、PATTY（5th, 2001））があり、ウサギで経口投与による麻酔作用のED50値は1440 mg/kg bwとの記載（EHC 102（1990））もあることから、区分3（麻酔作用）とした。また、ヒトにおける刺激性（眼及び鼻）を示すしきい値は4000～16000 ppmとされていることから、区分3（気道刺激性）とした。なお、単回ばく露後の主要な毒性影響は中枢神経系の抑制である（EHC 102（1990））。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	データ不足のため分類できない。なお、ラットに13週間あるいは1年半に及ぶ経口ばく露により、肝臓で脂肪変性、壊死、線維化など、骨髄の造血実質過形成などが報告されている（環境省リスク評価（第6巻、2008）、EHC 102（1990）、BUA Report No.190（1998））が、いずれもガイダンス値範囲を超える用量での所見である。
誤えん有害性	炭素数3以上13以下の一級ノルマルアルコールであり、国連GHSの区分2に該当するが、区分1を示すデータはなく、区分2を採用していないJIS Z 7252に従い、分類できないとした。

12. 環境影響情報	
生態毒性　水生環境有害性短期（急性）	甲殻類（オオミジンコ）48時間LC50 = 3025 mg/L（EHC 102（1990）他）であることから、区分に該当しないとした。
生態毒性　水生環境有害性長期（慢性）	急性毒性が区分に該当せず、難水溶性ではない（水溶解度＝1.00×10^6 mg/L（PHYSPROP Database（2009））））ことから、区分に該当しないとした。
残留性・分解性	良分解性（化審法既存化学物質安全性点検結果）
生体蓄積性	log Pow＝0.25であり、生体蓄積性は低いと推定される。
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	当該情報なし（モントリオール議定書の附属書に列記された物質ではない）

13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者、若しくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意	
国際規制　国連番号	1274

国連品名	n-PROPANOL (PROPYL ALCOHOL, NORMAL)
国連危険有害性クラス	3
副次危険	該当しない
容器等級	II
海洋汚染物質	該当しない
MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質	該当する (有害液体物質 Y 類)
国内規制　陸上規制情報	消防法の規定に従う (第 4 類 アルコール類)。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う (引火性液体類)。
航空規制情報	航空法の規定に従う (引火性液体)。
特別な安全上の対策	移送時にイエローカードの保持が必要。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
緊急時応急措置指針番号	129

15. 適用法令

法規制情報は改訂日時点に基づいて記載している。事業場において使用する際には、最新情報を確認すること。

労働安全衛生法	名称等を表示・通知すべき危険物及び有害物 リスクアセスメント対象物 濃度基準値設定物質 (八時間濃度基準値：300 ppm) 皮膚等障害化学物質等 (皮膚刺激性有害物質、皮膚吸収性有害物質) 危険物・引火性の物
化学物質審査規制法 (化審法)	一般化学物質
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法)	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない
消防法	第 4 類引火性液体 アルコール類 危険等級 II 指定数量 400 L
大気汚染防止法	揮発性有機化合物 (VOC)
海洋汚染防止法	有害液体物質 (Y 類物質)
船舶安全法	引火性液体類
航空法	引火性液体
港則法	引火性液体類

16. その他の情報

参考文献	NITE 化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP) NITE 統合版 政府による GHS 分類結果 (ノルマル-プロピルアルコール) 厚生労働省 職場のあんぜんサイト GHS 対応モデルラベル・モデル SDS 情報 (ノルマル-プロピルアルコール) JIS Z 7252：2025、JIS Z 7253：2025 日本産業衛生学会「許容濃度等の勧告 (2025 年度)」 ACGIH, TLVs and BEIs (2025) その他、各データ毎に記載した文献

改訂内容	JIS Z 7252：2025 及び JIS Z 7253：2025 に準拠して全面改訂。 GHS 分類は最新の政府による GHS 分類結果と照合し、変更なし。絵表示（腐食性、感嘆符）を明記。 危険有害性情報及び注意書きを国連 GHS 改訂 9 版（政府仮訳）に基づく文言・コードに更新（P201/P202→P203、P308+P313→P318、P305+P351+P338→P305+P354+P338 等）。 第 8 項に濃度基準値（八時間濃度基準値 300 ppm、令和 8 年 10 月 1 日適用）を追加。 第 8 項、第 14 項、第 15 項を最新の法規制情報に基づき改訂（安衛法：リスクアセスメント対象物、濃度基準値設定物質、皮膚等障害化学物質等、大気汚染防止法：VOC 等を追加）。
免責事項	本安全データシート（SDS）に記載した内容は、現時点で入手可能な資料及び情報に基づいて作成したものであり、記載内容の完全性及び正確性を保証するものではありません。また、本 SDS は今後、新たな知見や法令改正等により、予告なく内容を変更することがあります。 お取引先各位におかれましては、本 SDS の情報を、当該製品を安全に取扱うための参考情報としてご利用いただき、実際の取扱いにあたっては、自らの用途・使用条件・作業環境等に応じて必要な安全対策を講じるとともに、関連法令を遵守してくださいますようお願いいたします。 本 SDS は製品の品質を保証するものではなく、本 SDS の記載内容に関連して生じた損害について、当社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。